

男女共同参画 公開ランチョンワークショップ

「優れた科学の芽を皆でサポートするために」 ～ バイアスを越えて ～

日時：9月21日（水）12：15～13：45

会場：京都大学農学部総合館3階 W314

世話人：日本遺伝学会男女共同参画推進特別委員会
京都大学女性研究者支援センター

研究者がそのキャリアを積み上げていく過程では、はっきりとは見えないが、何らかのバイアスのある局面に出会うことがある。このバイアスがどのように生まれてキャリアパスのバリアになっているのか、また、性別に関係するのか若手特有の問題であるのか、よく見極めて検討する必要がある。現在、いくつかの学会が協力して学会活動における女性や若手研究者の活動状況についての調査を行っているが、本ワークショップではその調査結果や国内外の現状を紹介するなかで、どのような問題が男女間にあるのかを互いに認識し合い、これからの適切な取組みについて意見交換を進めたい。

（司会：松浦 悦子 日本遺伝学会男女共同参画推進担当特別幹事）

1 はじめに

五條堀 孝 日本遺伝学会会長

2 “Beyond Bias and Barriers”

- 研究者をとりまく「偏り」と「障壁」を知る -

大坪 久子 日本大学薬学部薬学研究所
元日本大学女性研究者支援推進ユニット長

我が国の女性研究者の割合は13.6%（2010年3月時点）で、先進国のなかで最下位に位置しており、なかなか上昇しない。この背景には多くの課題が存在することがこれまでにも指摘されてきたが、意外に気づかれていないことに「バイアスとバリア」の問題がある。まずは、社会通念に潜む無意識下のバイアスや、職業選択に見られるバイアスとバリア、最近注目されてきた研究活動、学会活動あるいは大学運営に見られるバイアス等について国内外の具体例をあげて紹介したい。男女研究者を育て、その能力を十分に発揮させるためには、一体この「バイアスとバリア」をどうクリアしてゆけばよいのか、皆さんと議論できればと考える。

3 女性研究者支援・システム改革加速事業の推進と京都大学の取組

稲葉 カヨ **京都大学大学院生命科学研究科**
京都大学女性研究者支援センター長

2006 年開始の科学技術振興調整費『女性研究者支援モデル育成』事業と 2009 年からの『女性研究者養成システム改革加速』事業は共に昨年末で募集を終了したが、それぞれ 55 機関と 12 機関が採択され、独自のプログラムにしたがって、支援活動を推進・展開してきている。京都大学でも、「女性研究者支援センター」を設立して、6 つのワーキング・グループの下に各種支援事業を推進している。また、「京都大学男女共同参画アクション・プラン」にしたがって環境整備を進め、女性研究者の採用促進を目指している。

これらの取り組みにより、女性研究者が京都大学をはじめ多くの機関でキャリア・アップを図り、活躍することを期待している。

4 総合討論

5 おわりに

遠藤 隆 **日本遺伝学会第 83 回大会委員長**